

金環日食観測報告

高木 健太 (2010年入学 惑星班)

今年度は太陽に関するイベントの豊富な年となりました。一つは金星の日面通過、そしてもう一つが金環日食です。日食が日本で見られたのは、2009年(奄美諸島)の皆既食が最近ありましたが、金環食となると1987年(沖縄)、さらに関東となると1887年(北関東～新潟・福島)の皆既食までさかのぼってしまいます。

今回の金環日食の見える地域を示した金環帯に関東地方の多くの部分が入っており、東海大学湘南キャンパスも完璧に含まれていました。さらにこの金環帯の中心線は東海大学前駅の駅前を通過しており、東海大学は観測の絶好なポイントとなっていました。

私たちはOBの方々をお迎えして、1号館屋上にて観測する計画と2011年に復活した太陽班による天文台での観測計画の2つを考えていました。その一方、大学としても、全国の校舎と和歌山大学や志学館大学との連携により同時観測会を計画してネットにより動画配信の準備がされていました。

サークルとして部長教員である比田井先生のお誘いにより大学とサイエンスコミュニケーターの機材面における協力と共同観測という体制をとりました。

この時期は、サークルに新入生が入会したばかりで、新入生同士の横のつながりも上級生との縦のつながりも不十分で、上級生としてもすべての人を把握してない時期になります。さらに今年は新入会員の数が上級生より多くなるような大変な年であったので、金環日食に参加する人も大人数となり、連絡や参加の把握などの基本的はところから難しくなっていました。

そして計画は前日から始まります。本来であれば、全体で金目親水公園という天文台から東に少し坂を下った場所にある公園で前夜から観測する予定でした。しかし、天候に恵まれず3:30に大学に集合として、天文台で観測する人は前日から泊まってもらうようにしました。

3:30に集合してみると、完全なる曇天で4:00頃には雨が降ってきってしまうような天候でした。その後も雨が降ったり止んだりする中、多くの器材の移動と組み立てが始まりました。そして太陽が昇ってきたのか、だんだんまわりが明るくなってきましたが、一方に天候が良くなる傾向がありませんでした。遠くのほうを見ると晴れ間があるのか、陽が照っているようなところも見受けられて、とても残念な気持ちになりながら第一接触時間をむかえます。

第一接触(6:24)がきましたが依然曇り空、さらに雨。iPadで状況確認する人やワンセグのニュース番組で映像を見ている人、見えた演技をし始める人、様々でしたが何より悲愴感のようなものも立ち込めている現場となっていました。

第二接触(7:40)にはまだ厚い雲に覆われており、見える状態ではありませんでした。しかし、見えることを信じて観測準備を整えていました。

そんな中、金環日食開始から 30 秒ほどした時です。雲がだんだん薄くなってきて、突然誰かが「見えた！」と言って辺りは急に活気立ちました。雲の中ですがリング状になっている太陽を見ることが出来たのです。

この日、私たちが最初に見た太陽は金環日食でした。



観測地には一般の人もなだれ込むように観望しに来ていたので歓声の嵐でした。その後、第三接触 (7:43) の時間になるとさらに晴れてきて、雲の切れ間も出てくるようになりました。

これで金環日食の観測は終わりました。観測データとしては何も取れませんでした。悪天候の中でも約 80 名の大人数で見ることができたので、とても充実した観測となりました。

